

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 9 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2011～2014

課題番号：23320066

研究課題名(和文) フランス近代作家の歴史意識

研究課題名(英文) Historical Consciousness in Modern French Literary Authors

研究代表者

中地 義和 (NAKAJI, Yoshikazu)

東京大学・人文社会系研究科・教授

研究者番号：50188942

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 9,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、19世紀初頭から現代までのフランス文学史の尾根をなす作家のうち、その創作が歴史的出来事の経験や歴史をめぐる深い省察に根ざしている例を精選し、彼らがいかに歴史を内面化しながら作品を創出しているかを探ることを目的とした。またその様態を、各時代の文学理念、言語美学、人文知と関連づけながら、独自の視点からの文学史的通観の構築をめざした。対象になりうる事例の数はおびただしく、個々の事例は作家の生涯に根を張っているため、本格的に扱う対象の数を限らざるを得なかったが、第二帝政期から第三共和政初期、第二次世界大戦期、戦後のポストコロニアル期の文学を中心に、当初の計画に見合う成果が得られた。

研究成果の概要(英文)： This research focused on some modern French authors carefully picked out, whose creation is deep-rooted in their experiences of war and their historical consciousness, and on the way in which they internalize what they went through to bring forth their works. Its aim was also to correlate this mode of creation to the conception of literature, the linguistic aesthetic and the human knowledge of the times, in order to build a general view of literary history. There are many examples and each of them takes so deep root in the author's life that the number of the cases that we could study thoroughly was limited, but we have obtained significant results that correspond to our initial purpose, concerning three periods in particular : the Second Empire and the beginning of the Third Republic, World War II and the Postcolonial Age.

研究分野：人文学

 キーワード：歴史意識 戦争と文学 従軍作家 ポストコロニアル フランスとその外部 ランボー ル・クレジオ
サルトル

1. 研究開始当初の背景

研究代表者はフランス近代詩(ボードレール、ランボー)や現代作家ル・クレジオを主たる研究対象としているが、これらの作家の創作の基盤には、自らが歴史のなかに生きる存在であるという鋭い意識があることを近年ますます強く感じるようになった。歴史とは、まずは戦争、革命、植民地紛争などの社会的重大事件を指すが、同時にキリスト教的救済観の破綻や、ブルジョワ文明の進歩信仰とそれへの反動といった、18世紀後半以降3世紀にまたがって西欧精神が被った緩慢な根本的変質をも含む。また、西欧列強の植民地主義が、かつての植民者の末裔である文学者にもたらす余波は、旧植民地に生まれる文学と相まって、20世紀文学の無視できないファクターになっている。このように、マクロな歴史(Histoire)が個人史(histoire)に取り込まれる内面化のプロセスと、それが作品生成の推進力として働く様態を明かすことは、新たな文学史的展望を構築する上でも意義深い作業ではないかと考えた。

2. 研究の目的

本研究の題目に、「歴史観」ではなく「歴史意識」を掲げたのは、歴史が外的事象の連鎖として捕捉される際の知的表象を問題とするのではなく、(1)作家が精神と肉体において歴史をどのように生き、その経験をいかに創作に転じたか、(2)そうした経験の虚構化、歴史の作品化が作家にとってどのような実存的意味を持つか、を考察とするからである。いわば、自伝がフィクションに嵌まり込み、フィクションが経験の意味を映し出す鏡となるような入れ子の現象を、通時的に炙り出すのが狙いである。しかも本研究が対象とするのは、戦地に赴いた作家が従軍体験をもとに書いた小説を典型とするような、自らの過去を捉えなおす身振りに限られない、いま生きつつある現実の感覚や迫りくるものの予感が、個人を越える大きな時間の流れに結ばれているという歴史意識として、創作の強烈な動因となることがある。また、先祖、近親、友人といった近い人間の過去が、伝承を通じてまるで自身の過去のように同化され、そこに潜む闇が作家を創作=捜索に突き動かして止まないオブセッションと化す事例も少なくない。歴史意識を軸として生まれる多様な創作のありようを探り、通時的展望のなかで、作品生成の論理に新たな光を当てるのが本研究の目的である。

3. 研究の方法

本研究は4年計画で、個々のケースを綿密に検討する必要があるため、扱う事例の数を絞るが、時代に固有の歴史意識の反映を例証するモデルを厳選することで、文学史的な流れが抽出できるように工夫した。以下の三つのアプローチを並行的に進めた。

(1)個別作品の分析 19・20世紀のフラン

ス文学で、経験の作品化と創作の実存的意味とを、作家の歴史意識と交差させて考察するにふさわしい作家・作品の選定と参加メンバーの専門に応じて作業を分担し、成果を持ち寄って議論するプロセスを重ねる。

(2)周辺テキストの勘案 作家の残した日記や書簡、同時代の文学評論、詩論、芸術評論等を作品理解に積極的に活用する。

(3)未定稿資料の調査、現地調査、内外の研究者との知見の交換を図る。

4. 研究成果

以下の二つの点で顕著な成果が得られた。

本研究の柱の一つである戦争と文学の関係について、19世紀文学に登場する戦争が、非常事態ではあるにしても、しばしば恋愛や解放、あるいは軍隊的なものへの皮肉の契機になりえたのに対し、軍人の仕事の枠を超えて市民を巻き込む総力戦となる20世紀の戦争は、文学表象においても、個人の意志や感情とは無関係の、巨大で匿名的な力として不気味な遍在性を示すようになることが具体例に即して明確になった。また、生々しい体験を吐き出すように再現した作品よりも、セリヌやグラックに典型的に見られるように、傷痕を一定期間内部に抱え、その意味を辛抱強く問い直した作品に、文学的にすぐれたものが多いことが確認できた。経験は虚構化を通じてその意味を明かすが、虚構化には時間的・心理的距離が必要であることになる。

危機の予感、社会的変動の予兆を感知する詩人・文学者の反応はさまざまである。また変革の夢が潰え、否定的秩序の回帰という現実を前にした彼らが、生身の人間として示す反応、幻滅の作品化の様態もじつに多様である。本研究では、外部の研究者との知見の交流も頻繁に行ないながら、ボードレール、ランボー、ネルヴァル、シャトーブリアン、ヴァレリー、ブルースト、アラン、サルトル、グラック、セリヌ、ル・クレジオらについて、歴史意識が文学表象に結実するプロセスをめぐって、かなり踏み込んだ解明を行ない、明確な認識が得られた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計25件)

Yoshikazu NAKAJI (1), « Réécriture et transformation de soi », *Comment naît une œuvre littéraire ? Brouillon, contextes culturels, évolutions thématiques*, Paris, Champion, 査読有, 2011, p.191-202.

Yoshikazu NAKAJI (2), « La poétique de Baudelaire à la lumière des *Paradis artificiels* », *L'Année Baudelaire*, 査読有, 13/14, 2011, p.137-156.-

中地義和 (3), 「映画からの贈り物、映画への贈り物」, ル・クレジオ著/中地義和訳『ル・

クレジオ、映画を語る』(河出書房新社)、査読無、2012、p.233-243。
Yoshikazu NAKAJI (4), « De l'émerveillement à la recherche : Georges Bataille au Japon », *Critique*, 査読有, 788/789, 2013, p.124-137。
Yoshikazu NAKAJI (5), « Une parole qui se veut performative : considérations génériques sur *Une saison en enfer* », *La Licorne* (Presses universitaires de Rennes), 査読有, 105, 2013, p.227-236。
中地義和 (6), 「記憶、夢想、フィクション 『黄金探索者』から『隔離の島』へ」, ル・クレジオ著/中地義和訳『隔離の島』, 筑摩書房, 査読無, 2013, p.462-485。
Yoshikazu NAKAJI (7), « La poétique de la charité et ses limites », *Lire « Le Spleen de Paris » de Baudelaire* (Presses de l'Université de Paris-Sorbonne), 査読有, 2014, p. 113-124。
Yoshikazu NAKAJI (8), « La poésie d'une langue à l'autre : recherche, traduction, réinvention », *Nichifutu Bunka*, 84, 査読無, 2015, p.221-227。
月村辰雄 (1), 「マルコ・ポーロを原典で読む」, マルコ・ポーロ著/月村辰雄・久保田勝一訳『東方見聞録』(岩波書店)、査読無、2012、p.269-291。
塚本昌則 (1), 「デッサンの度合い ヴァレリーにおける夢の詩学」, 『絵を書く』(水声社), 2012, p.203-233。
塚本昌則 (2), 「ヴァレリーとフロイト—奇妙なまなざしをめぐって」, 『思想』(岩波書店), 査読無, 2014.4, p.243-261。
塚本昌則 (3), 「『夢の圧力』 プルーストとヴァレリーにおける眠りと夢について」, 査読無, 『思想』(岩波書店), 2013.11, p.103-123。
塚本昌則 (4), 「まどろみの詩学 プルーストとヴァレリーにおける夢」, 『言語文化』(明治学院大学言語文化研究所), 32, 2015, p.59-77。
野崎歎 (1), 「欲望の不壊 ロマン主義からフロイトへ」, 査読無, 『思想』(岩波書店), 2013.4, p.125-142。
野崎歎 (2), 「『死者との対話』 ロラン・バルトからシャトブリアンへ」, 秋山・野崎編『シリーズ人文知 2 死者との対話』(東京大学出版会), 査読無, 2014, p.1-19。
マリアンヌ・シモン=及川 (1), 「ベルナル・ノエル 画家の背後からの視線」, 『絵を書く』(水声社), 査読無, p.121-142。
Marianne SIMON-OIKAWA (2), « De la Joie à la Lune : les poèmes à voir de Pierre Albert-Birot », *Le Livre espace de création*, 査読無, 46, 2013, p.96-104。
Marianne SIMON-OIKAWA (3), « Au fil de la description : Le Musée du Louvre de Théophile Gautier », *Bulletin de la Société des amis de Théophile Gautier*, 査読無, 36, 2014, p.207-220。
Masahide NITTA (1), « Philosophie des sentiments. Une forme primordiale de la théorie des passions chez Alain », *Etudes de langue et*

littérature françaises, 査読有, 101, 2012, p.125-138。
Masahide NITTA (2), « Repenser l'émotion, la passion et le sentiment chez Alain, dans le cadre de ses premières œuvres », 査読有, 45, 2012, p.149-158。
畑浩一郎 (1), 「異国への郷愁、「出会い」の美学—テオフィル・コーチエ『コンスタンチノーブル』読解の試み」, 『聖心女子大学論叢』 査読有, 120, 2012, p.41-56。
畑浩一郎 (2), 「旅行記、自伝、歴史 シャトブリアン『パリからエルサレムへの旅程』論」, 『聖心女子大学論叢』, 査読有, 124, 2015, p.3-26。
Takahisa HONDA (1), « Vers la forme poétique brève, ou la Révolution », *Modernités* (Presses universitaires de Bordeaux), 査読有, 37, 2014, p.167-176。
深沢克己 (1), 「啓蒙期フリーメイソンの儀礼と位階 石工伝統から騎士団伝説へ」, 『白山史学』(東洋大学), 査読有, 2012, p.27-61。
Katsumi FUKASAWA (2), « Du rite français au rite écossais réctifié. Le choix de la Loge de la Triple Union de Marseille à la fin du XVIII^e siècle », *Diffusions et circulations des pratiques maçonniques* (Paris, Classiques Garnier), 査読有, 2012, p.63-81。
〔学会発表〕(計21件)
Yoshikazu NAKAJI (1), « Le poète en prose est-il moderne ou anti-moderne? », 招待講演, 2012年3月27日, コレージュ・ド・フランス(フランス、パリ市)。
Yoshikazu NAKAJI (2), « Lacune mémorielle et imagination réparatrice : la plénitude dans le « cycle mauricien » de Le Clézio », 招待講演, 2013年11月22日, ボルドー大学(フランス、ボルドー市)。
Yoshikazu NAKAJI (3), « Rimbaud autocritique » 国際シンポジウム「Rimbaud poéticien」での発表, 2013年11月28日, カ・フォスカリ大学(イタリア、ヴェネツィア市)。
Yoshikazu NAKAJI (4), « Mémoire et imagination dans la création littéraire » J・M・G・ル・クレジオ氏との公開対談(仏語), (日本語への同時通訳付), 2013年12月18日, 東京大学文学部。
中地義和 (5), 「言語を移り住む詩 研究、翻訳、再創造」(渋沢クロード賞30周年記念シンポジウム「フランス的知性の今?」)での発表, 2014年4月3日, 東京日仏会館(東京都渋谷区)。
Yoshikazu NAKAJI (6), « La poésie d'une langue à l'autre : recherche, traduction, réinvention », 日仏シンポジウム「L'avenir des échanges franco-japonais en sciences

humaines et sociales」での発表, 2014年6月7日, 日本文化会館(フランス、パリ市).

中地義和 (7), 「フランス文学研究・翻訳の現在」(日本フランス語フランス文学会秋季大会におけるラウンド・テーブル), 2014年10月24日, 広島大学(広島県東広島市).

Yoshikazu NAKAJI (8), «La poétique de la charité et ses limites», 国際シンポジウム «Journées d'étude sur *Le Spleen de Paris* de Baudelaire»での発表, 2014年12月6日, パリ第四(旧ソルボンヌ)大学(フランス、パリ市).

月村辰雄 (1), 「マルコ・ポーロ『東方見聞録』, 招待講演, 2012年10月6日, 武蔵野美術大学(東京都武蔵野市).

塚本昌則 (1), 「中心的態度 サルトルのイメージ論をめくって」, シンポジウム「サルトル/バルト」での発表, 2012年12月8日, 東京外国語大学(東京都府中市).

塚本昌則 (2), 「オートフィクションと写真」, シンポジウム「生表象の近代 自伝・フィクション・学知」での招待講演, 2014年12月2日, 一橋大学(東京都国立市).

Kan NOZAKI (1), «Au-delà de l'orientalisme : Nerval à la lumière de Saïd», 国際シンポジウム «Nerval: histoire et politique»での発表, 2014年6月6,7日, パリ東大学(フランス、クレテイユ市).

野崎歎 (2), 「歌声と回想 ルソー、シャトープリアン、ネルヴァル」, シンポジウム「声と文学」での発表, 2014年9月27日, 東京大学文学部.

Marianne SIMON-OIKAWA (1), «Le Musée de Théophile Gautier», シンポジウム「テオフィル・ゴーチエと19世紀芸術」における発表, 2012年5月20日, 上智大学(東京都新宿区).

Marianne SIMON-OIKAWA (2), «De la Picardie au Japon: espaces de Pierre Garnier», 招待講演, 2015年3月15日, Cercle Alienor(フランス、パリ市).

新田昌英 (1), 「反省哲学における心理学と形而上学 ラシュリエ、ラニュー、アランの場合」, 日仏哲学会での発表, 2013年3月30日, 京都大学(京都府京都市).

新田昌英 (2), 「応用心理学雑誌の寄稿者アラン」, 日本フランス語フランス文学会秋季大会での発表, 2014年10月25日(広島県東広島市).

畑浩一郎 (1), 「旅行者ゴーチエと変遷するトルコ」, シンポジウム「テオフィル・ゴーチエと19世紀芸術」における発表, 2012年5月20日, 上智大学(東京都新宿区).

畑浩一郎 (2), 「旅する文学者 ジェラルド・ド・ネルヴァルと地中海」, 招待講演, 2014年4月26日, プリヂストン美術館(東京都中央区).

Takahisa HONDA (1), «La poétique de Michel Leiris», シンポジウム «Soi-disant poésie et

empêchement»での発表, 2012年9月12, 13日, 岩手大学(岩手県盛岡市).

本田貴久 (2), 「ジャン・ポーランとマダガスカル」, 「中央大学人文科学研究公開研究会」での発表, 2013年11月9日, 中央大学(東京都千代田区).

〔図書〕(計16件)

中地義和 (1), ジャン＝マリ・ル・クレジオ『ル・クレジオ、映画を語る』(訳), 河出書房新社, 2012年, 243+ix p.

中地義和 (2), ジャン＝マリ・ル・クレジオ『隔離の島』(訳), 筑摩書房, 2013年, 485p.

Yoshikazu NAKAJI (3), *Dictionnaire Rimbaud* (共著), Paris, Robert Laffont, 2014, 732p. («*Une saison enfer*», p.668-677を担当).

月村辰雄 (1), マルコ・ポーロ『東方見聞録』(共訳), 岩波書店, 2012年, 291p.

塚本昌則 (1), パトリック・シャモワゾ『サミア・カッサブ＝シャルファイ』(共訳), アンステイチュ・フランセ, 2012年, 119p.

塚本昌則 (2), 『写真と文学 何がイメージの価値を決めるのか』(編著), 平凡社, 2013年, 377p.

塚本昌則 (3), ポール・ヴァレリー『レオナルド・ダ・ヴィンチ論』(訳), 筑摩書房, 2013年, 329p.

塚本昌則 (4), カトリーヌ・クレマン『レイ・ストロース』(訳), 白水社, 2014年, 78p.

野崎歎 (1), イレーヌ・ネミロフスキー『フランス組曲』(共訳), 白水社, 2012年, 565p.

野崎歎 (2), 『フランス文学と愛』, 講談社, 2013年, 268p.

野崎歎 (3), ミシェル・ウエルベック『地図と領土』(訳), 筑摩書房, 2013年, 402p.

マリアンヌ・シモン＝及川 (1), 『絵を書く』(編著), 水声社, 2012年, 277p.

新田昌英 (1), 『アランの情念論』(単著), 慶應大学出版会, 2014年, 448p.

本田貴久 (1), ジャン＝ピエール・デュピュイ『ありえないことが現実になるとき』(共訳), 筑摩書房, 2012年, 233p.

本田貴久 (2), 『フランス民話集IV』(共訳), 中央大学出版会, 2014年, 708+7 p. (p.161-314を担当)

本田貴久 (3), 『フランス民話集IV』(共訳), 中央大学出版会, 2015年, 749+6 p. (p.1-101を担当).

〔産業財産権〕
出願状況(計0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

取得状況 (計 0 件)

なし

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

<http://www.l.u-tokyo.ac.jp/futsubun/>

6. 研究組織

(1)研究代表者

中地 義和 (NAKAJI Yoshikazu)
東京大学・大学院人文社会系研究科・教授
研究者番号：50188942

(2)研究分担者

月村 辰雄 (TSUKIMURA Tatsuo)
東京大学・大学院人文社会系研究科・教授
研究者番号：50143342

塚本 昌則 (TSUKAMOTO Masanori)
東京大学・大学院人文社会系研究科・教授
研究者番号：90242081

野崎 歓 (NOZAKI Kan)
東京大学・大学院人文社会系研究科・教授
研究者番号：60218310

マリアンヌ・シモン = 及川 (Mariann
SIMON-OIKAWA)
東京大学・大学院人文社会系研究科・准教授
研究者番号：70447457

深沢克己 (FUKASAWA Katsumi)
東京大学・大学院人文社会系研究科・教授
研究者番号：60199156

新田昌英 (NITTA Masahide)
東京大学・大学院人文社会系研究科・助教
研究者番号：70634559

畑浩一郎 (HATA Kôichirô)
聖心女子大学・文学部・専任講師
研究者番号：20514574

本田貴久 (HONDA Takahisa)
中央大学・経済学部・准教授
研究者番号：50610292

(3)連携研究者